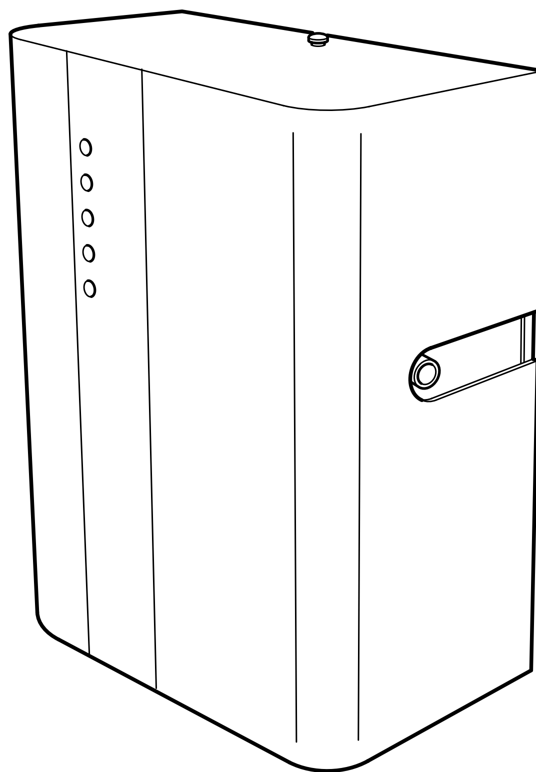
KC
KOHGIKEN CORPORATION

取扱説明書

自動燃料供給装置　オイルキャリー

型式：OC-801



ご使用の前に必ずこの「取扱説明書」をお読みいただき、ご理解の上、正しく取付けご使用くださいますようお願いいたします

この取扱説明書は再生紙を使用しています。
この取扱説明書のNo.はGM0071-12です。

目次

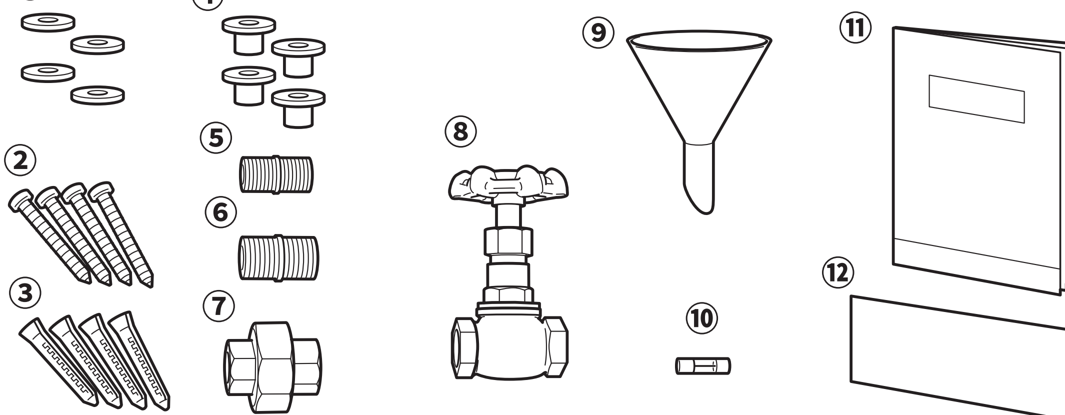
1. はじめに

このたびは、自動燃料供給装置「オイルキャリー」をお買い上げいただき、ありがとうございます。

- 「オイルキャリー」は、燃料油（灯油、A重油）をメインタンクから自動的に吸上げ本器内蔵のタンクに貯蔵し、落差で燃焼器へ供給する自動燃料供給装置です。
- ご使用の前に必ず、この「取扱説明書」をお読みいただき、ご理解の上、正しく取付け、ご使用くださいますようお願いいたします。
- この「取扱説明書」は、お読みになった後も必ず保管してください。
- ご不明な点が生じたときは、必ずこの「取扱説明書」をお読みいただき、不明な場合は、最寄りのご相談窓口までお問い合わせください。

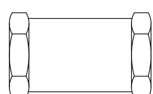
1-1. 付属品

箱から「オイルキャリー」を取出し損傷がないか確認してください。
また、次のものが同梱されていることを確認してください。



①	ワッシャー	4個	⑦	10Aユニオン	1個
②	ネジ	4本	⑧	15A送油用バルブ	1個
③	プラグ	4本	⑨	ジョウゴ	1個
④	防振ゴム	4個	⑩	ヒューズ	1本
⑤	10Aニップル	1個	⑪	取扱説明書（本書）	1冊
⑥	15Aニップル	1個	⑫	保証書	1部

1-2. オプション品



リフトチャッキ

2. 安全上のご注意

必ずお守りください

- この「取扱説明書」では、警告表示［⚠ 警告］［⚠ 注意］を次のような定義により使用しています。
  警告表示により指示された内容は、人身事故や物的損害を防止するための重要な事項です。必ず熟読し、理解した上で使用してください。

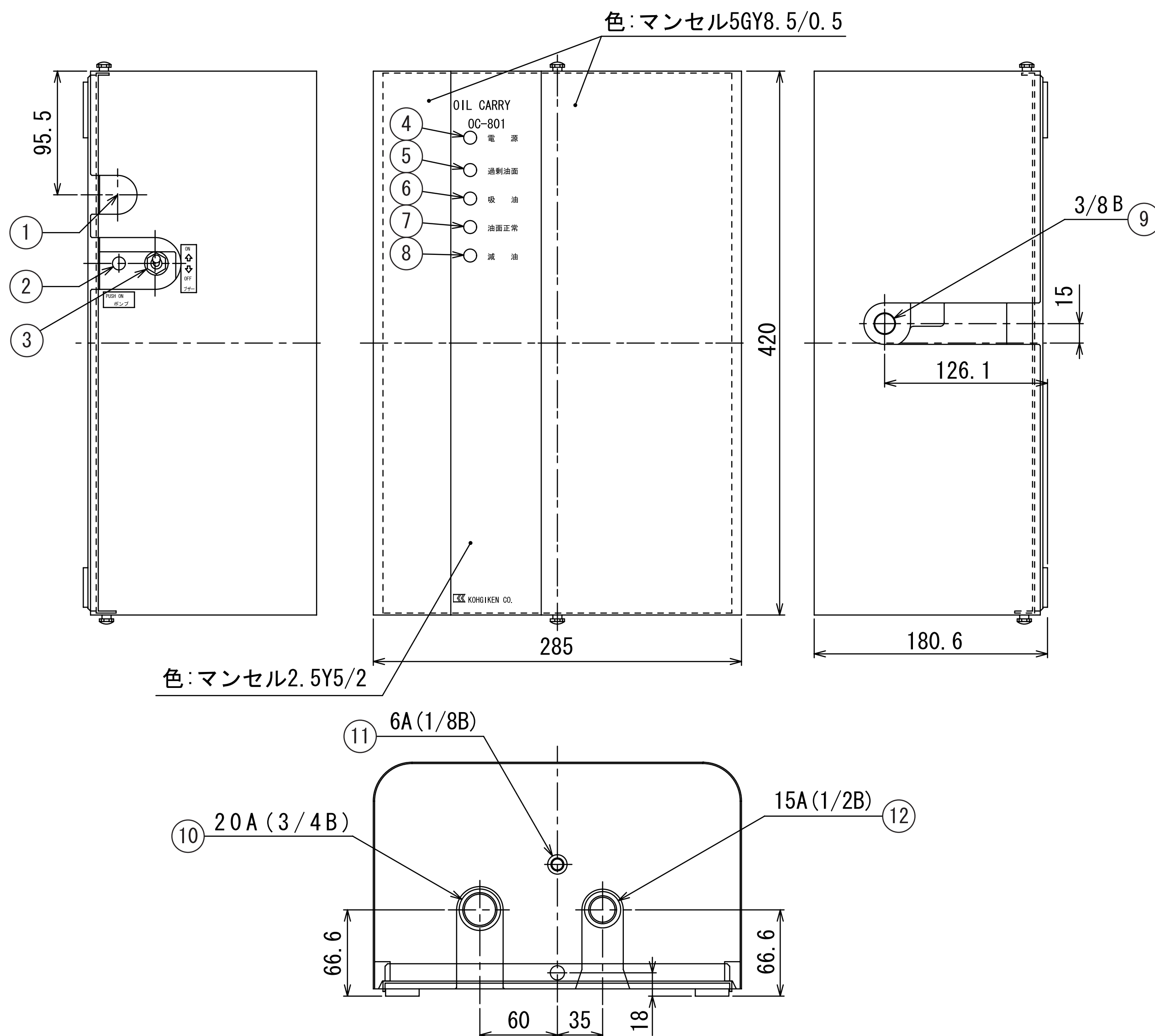
⚠ 警告	取扱いを誤った場合に、人が死亡または重傷を負う危険が想定される場合
⚠ 注意	取扱いを誤った場合に、負傷を負う危険が想定される場合または物的損害の発生する可能性がある場合

- 表示の意味

	必ず実行していただく「強制」事項です
	おこなってはいけない「禁止」事項です
	分解・改造をしないでください
	感電に注意してください

3. 各部名称

3-1. 外観

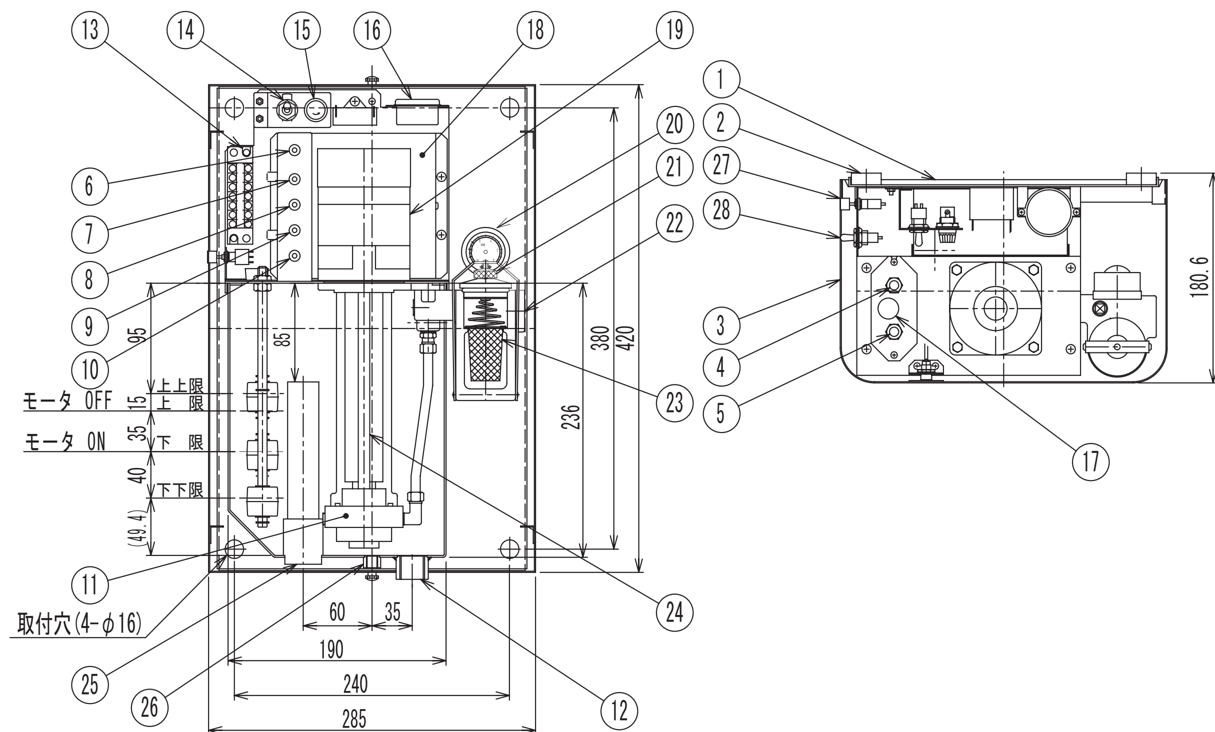


① 配線口
② ポンプ起動スイッチ
③ ブザー停止スイッチ
④ 電源表示ランプ（白） *注
⑤ 過剰油面表示ランプ（赤）
⑥ 吸油表示ランプ（緑）
⑦ 油面正常表示ランプ（緑）
⑧ 減油表示ランプ（黄）
⑨ 吸油管接続口
⑩ 戻り管接続口
⑪ドレン
⑫ 送油管接続口

***注**

電源表示ランプ(白)の表面レンズは白色ですが発光色が赤色の為、発光した時は桃色に見えます

3-2. 内部



① ベース	⑮ ヒューズ(φ5.2 × 20L 3A)
② ゴム足	⑯ 警報ブザー(音量可変型)
③ カバー	⑰ 呼油口用栓
④ フロートスイッチ（上上限、下限）	⑱ 制御ユニット
⑤ フロートスイッチ（上限、下下限）	⑲ モータ
⑥ 電源表示ランプ（白）* 注	⑳ 真空ゲージ
⑦ 過剰油面表示ランプ（赤）	㉑ 押ゴマ
⑧ 吸油表示ランプ（緑）	㉒ 吸油管接続口
⑨ 油面正常表示ランプ（緑）	㉓ フィルター
⑩ 減油表示ランプ（黄）	㉔ 連結管
⑪ ポンプ	㉕ 戻り管接続口
⑫ 送油管接続口	㉖ ドレン
⑬ 端子台	㉗ ポンプ起動スイッチ
⑭ 電源スイッチ	㉘ ブザー停止スイッチ

*** 注**

電源表示ランプ(白)の表面レンズは白色ですが発光色が赤色の為、発光した時は桃色に見えます

4. 設置

4-1. 設置上の警告・注意

⚠ 警　告	
	オイルキャリーを分解・改造しない →感電や故障による油漏れ、火災やけがの原因になります
	吸油管、送油管、戻り管の配管は油漏れがないよう確実に取付けること →油漏れによる火災の原因になります
	オイルキャリーを使用して、補助タンクや容器などに給油しない →油漏れによる火災の原因になります

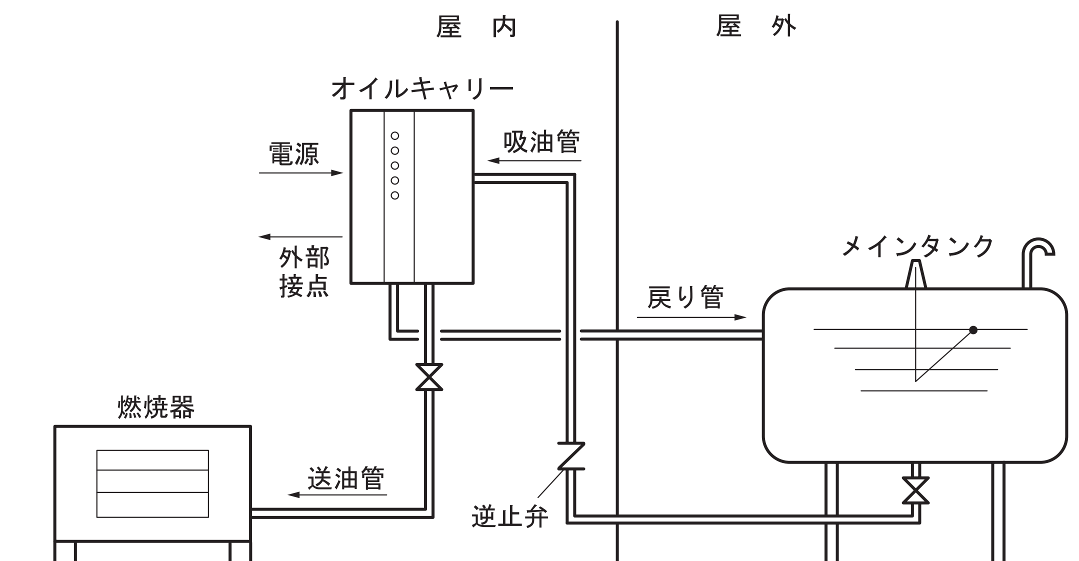
⚠ 注　意	
	取付け、設置の際は計装工事、電気工事などの専門技術を有する人がおこなうこと
	各地区の火災予防条例（消防署か関係官庁にお問い合わせください）で規定されている場合は、その指示に従って設置すること
	本体及び配管を設置する場所は、火気・雨水・ゴミ・高温および直射日光を避けた安全な場所に設置すること (直射日光などにより液体が熱膨張し、オイルキャリータンク内へ流入し、上上限警報が作動する事があります)
	戻り管は必ず設けること
	階段、避難口などの近くには設置せず、防火上安全な場所に設置すること
	取付け場所は、安全で振動の伝わりにくい場所を選び、中空の壁などに取付けないでください。騒音や振動が伝わることがあります。 また、油が入った状態の質量に十分耐える場所を選ぶこと
	ボイラー、ストーブなど火気を使用する機器や燃焼筒、排気筒などに触れたり近い場所には設置しないこと
	油の臭いがするため、密閉した部屋には設置しないこと やむを得ず密閉した部屋に設置する場合は、十分な換気設備を設けること

⚠ 注　意	
🚫	メインタンクより高い位置に設置してください
	灯油・Ａ重油以外の液体は使用しないでください
	故障の原因になりますので、ゴミ、水などの入った長期滞留した灯油・Ａ重油は使用しないでください。また配管内にゴミや小さな金属片などが残らないように注意してください
	入力電源は、ＡＣ１００Ｖです。ＡＣ１００Ｖ以外の電源は使用しないでください
	寒冷地では、結露により内部に水がたまり故障の原因になることがあります。必ず屋内に設置してください

燃焼器およびメインタンクの設置と配管は、それぞれの「取扱説明書」などを参照して、事前に作業をおこなっておいてください。

4-2. 設置概要図

設置は、以下の概要図に基づきおこなってください。



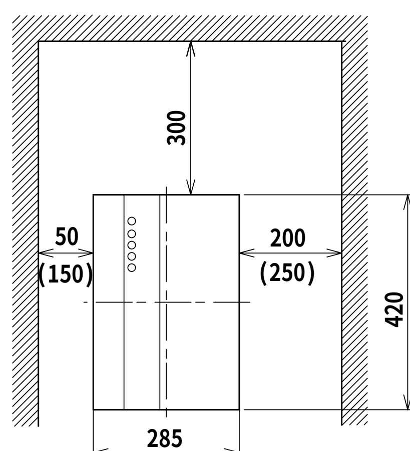
4-3. 取付け

「オイルキャリー」は屋内取付専用です。屋外に取付ける場合は、オプションの「屋外格納箱」を使用してください。
オプションの「屋外格納箱」および「屋内格納箱」に「オイルキャリー」を取付ける場合は、別紙「設置要領書」を参照し取付けてください。

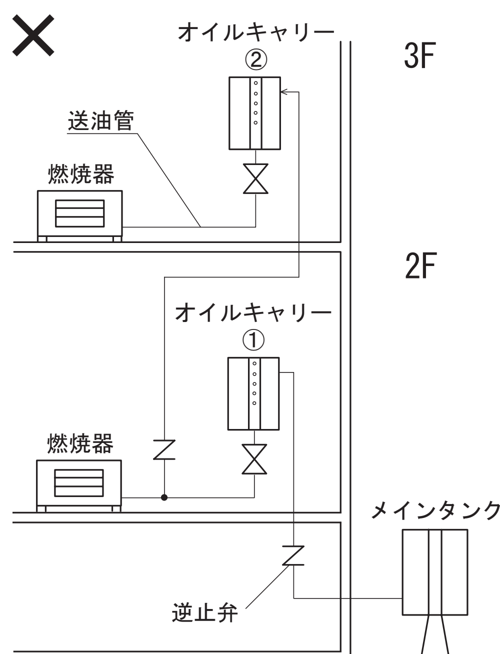
4-3-1.取付上の注意

「オイルキャリー」の取付けは、次の点に注意してください。

・メインタンクの底面から「オイルキャリー」の吸油管接続口までの高さは、最高８ｍ以内とし、できる限り低い位置に取付けます。
・オイルキャリーはメインタンクより高い位置に取付けてください。
・燃焼器の燃料取入口から、「オイルキャリー」の高さは、燃焼器の仕様に合わせてください。
・メインタンクから「オイルキャリー」までの配管全長は、50ｍ以内にしてください。
・直射日光等により、配管内液体が熱膨張してオイルキャリータンク内へ流入し、上上限警報が動作することを防止するため、配管部を断熱処理してください。
・1 台の「オイルキャリー」で数台の燃焼器に油を供給する場合、その燃焼器の最大使用量の合計が「オイルキャリー」の供給能力以内（P.30 参照）であれば各燃焼器に送油することは可能ですが、配管抵抗などを考慮し十分な余裕（能力の約１/２）を取ってください。また、数台の燃焼器を使用する場合はできる限り中間に取付けてください。
・取付場所は、安全で振動の伝わりにくい場所を選び、中空の壁などに取付けないでください。騒音や振動が伝わることがあります。また、油が入った状態の質量に十分耐える場所を選んでください。
・「オイルキャリー」を取付けるときは、保守・点検を考慮して、下図に示しているスペースを確保してください。
・密閉した部屋に設置する場合には、油の臭いがしますので十分な換気の設備をしてください。
・ 下図のように「オイルキャリー①」を中継して、もう一台「オイルキャリー②」への吸油をおこなうような設置はしないでください。



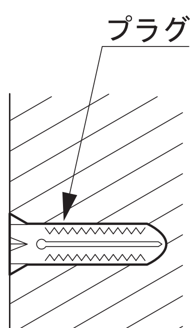
(　)内寸法は防護カバーを取付ける場合のスペースです。

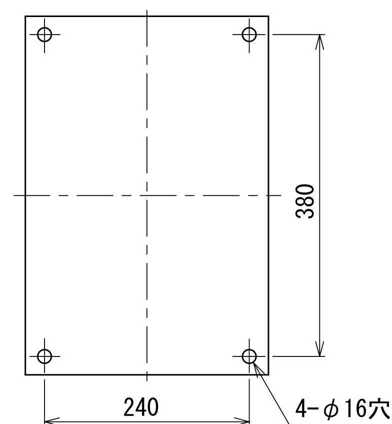


4-3-2.オイルキャリーの取付け

取付けは次の手順でおこなってください。

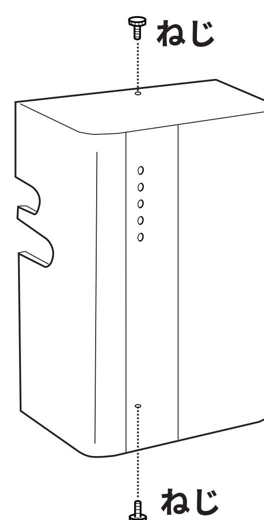
① 取付寸法図に基づき、ドリルで4箇所に 8㎜の穴を開けプラグを打ち込みます。



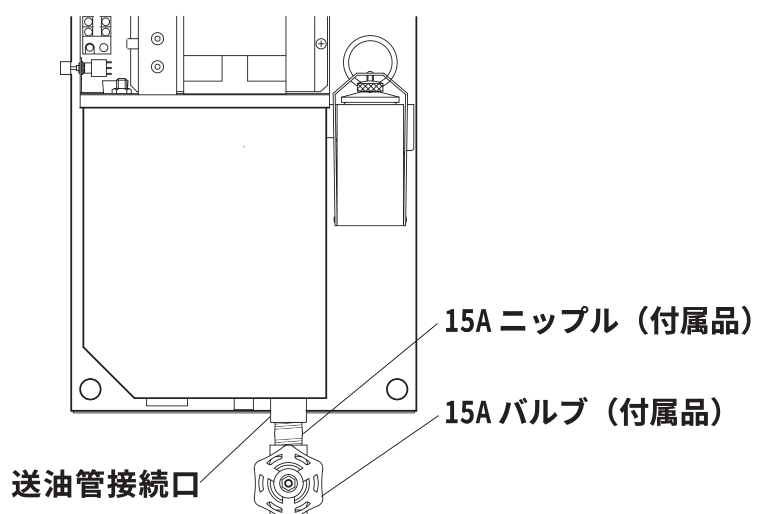


取付寸法図

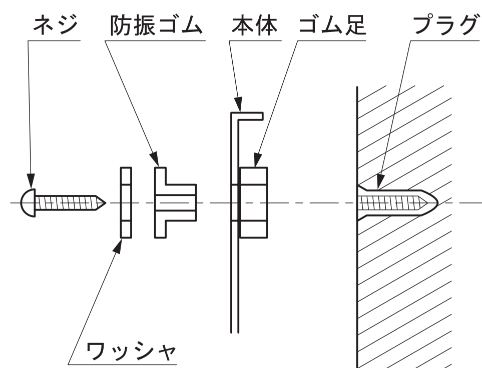
② 本体上下のカバー固定ねじをはずし、カバーを手前に引いてはずします。

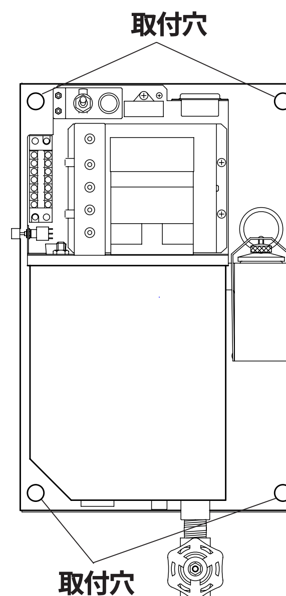


③ ニップルにシールテープを巻き、送油管接続口に付属品の15Aニップル、15Aバルブを接続します。



④プラグ４箇所に「オイルキャリー」の取付穴を合わせ、ねじ４本をワッシャと防振ゴムを通して最後までしっかりねじ込みます。



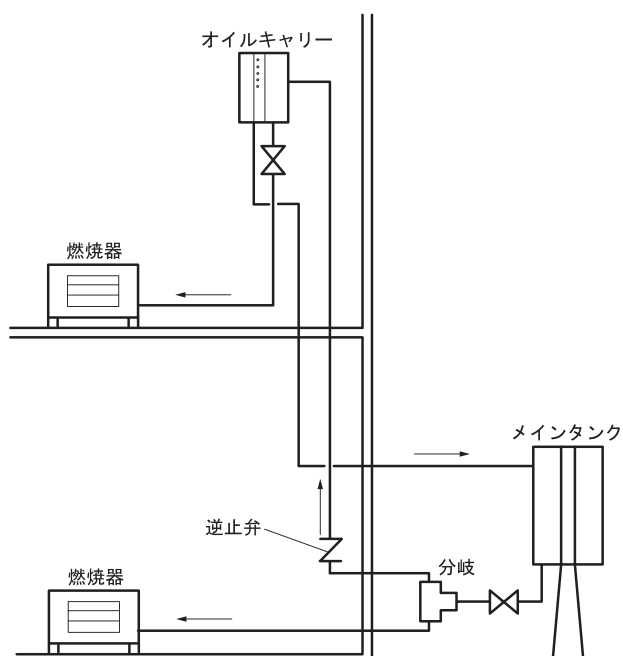


4-4. 配管工事

4-4-1. 配管上の注意

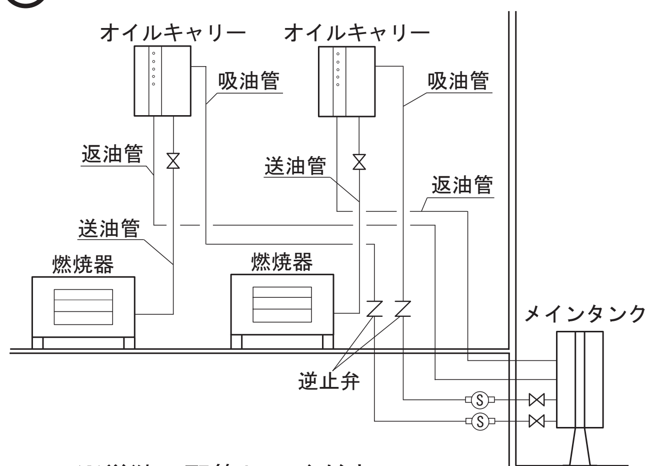
配管には、次の点に注意してください。

- 配管は、適切な方法でしっかり固定してください。
- 配管内にゴミや小さな金属片が残らないよう注意してください。
- メインタンクから「オイルキャリー」までの配管全長は、50ｍ以内にしてください。
- １つのメインタンクから、自然落差による送油と「オイルキャリー」を使用して送油をおこなう場合、その分岐点はメインタンクの送油口にできる限り近い所に設けてください。

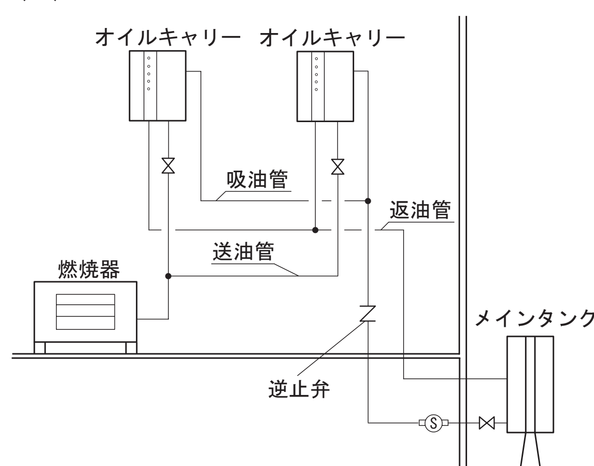


・オイルキャリーを複数台使用する際、各オイルキャリーからの送油管 、
吸油管および返油管はまとめないでください。誤動作の原因になります。

○

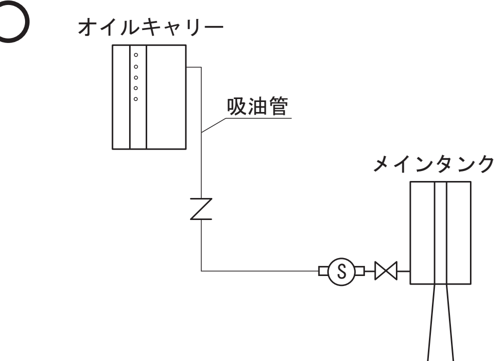


×

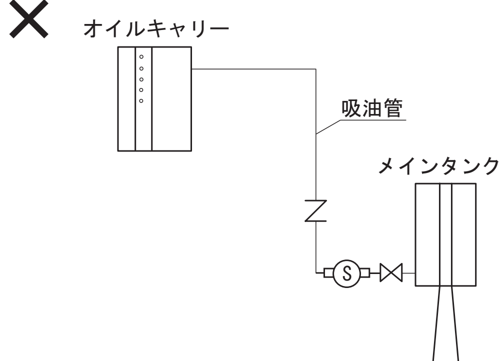


・吸油管の配管はできる限り下でおこない、「オイルキャリー」の近くで下から
立ち上げてください。

○

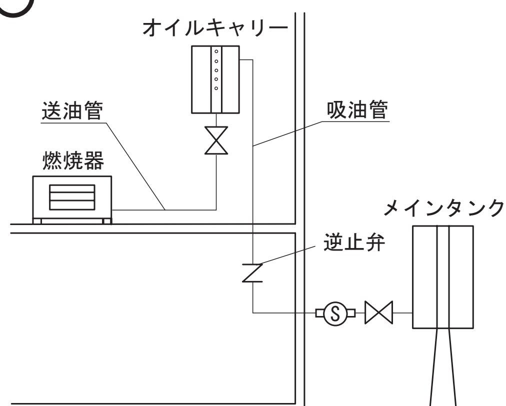


×

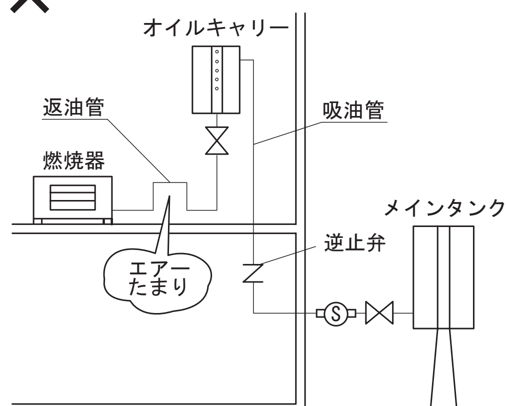


・吸油管の配管はできる限り継手部分を設けないようにし、設ける場合は、
点検・保守がしやすい場所にしてください。
・「オイルキャリー」からの送油配管が途中で凸状にならないように配管して
ください。凸状になった部分があるとエアーたまりができ、油が流れなく
なります。

○

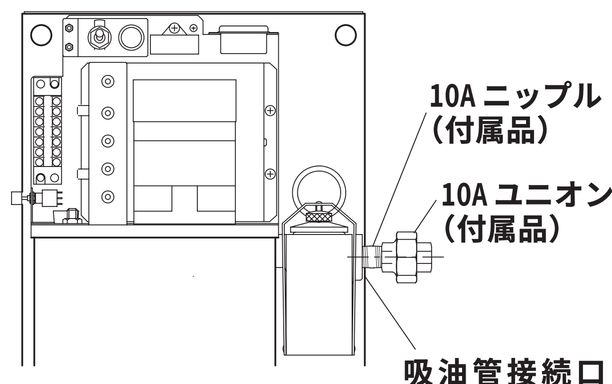


×



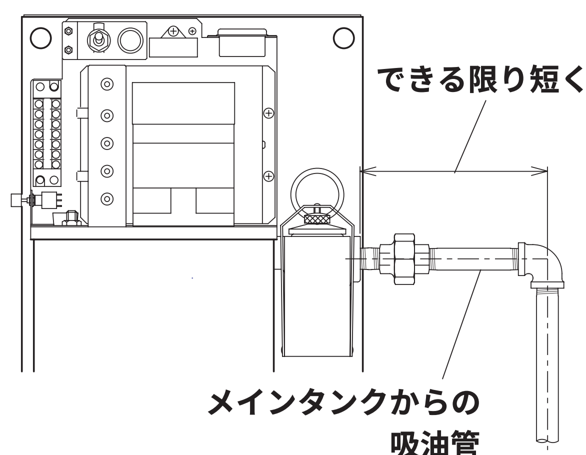
4-4-2. 吸油管の接続

①ニップルにシールテープを巻き、吸油管接続口に付属品の 10A ニップル、10A ユニオンを接続します。



②メインタンクからの吸油管にシールテープを巻き、ユニオンに接続します。

※吸油管接続口と吸油管の立ち上がり配管までの長さは、できる限り短く（防護カバーを取付ける場合は 140㎜ 以下に）してください。



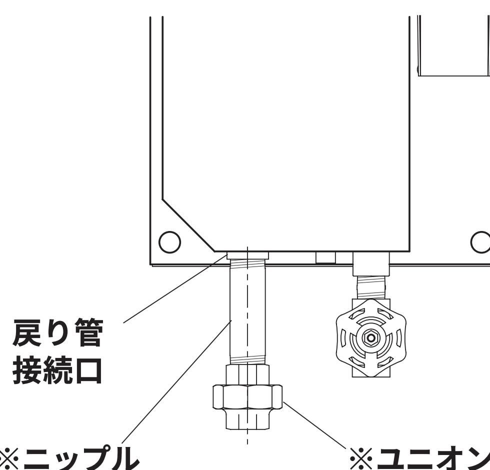
4-4-3. 戻り管の接続

「オイルキャリー」は安全性を考慮し、あふれ防止装置（ブザー鳴動およびモータの停止）が内蔵されていますが、さらに安全を確保するために戻り管接続口を設けております。次の手順で戻り管を必ず接続してください。
※戻り管のサイズ(20A)を小さくしないでください。

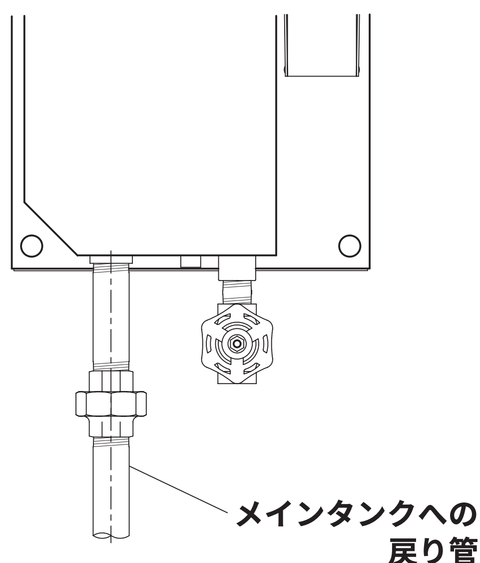
① 20A ニップルにシールテープを巻き、戻り管接続口に 20A ニップル、20A ユニオンを接続します。

※ニップル、ユニオンは付属品外ですので、別途ご用意ください。

また、ユニオンは点検・保守を考慮し「オイルキャリー」の近くに設けてください。



②メインタンクへの戻り管にシールテープを巻き、ユニオンに接続します。

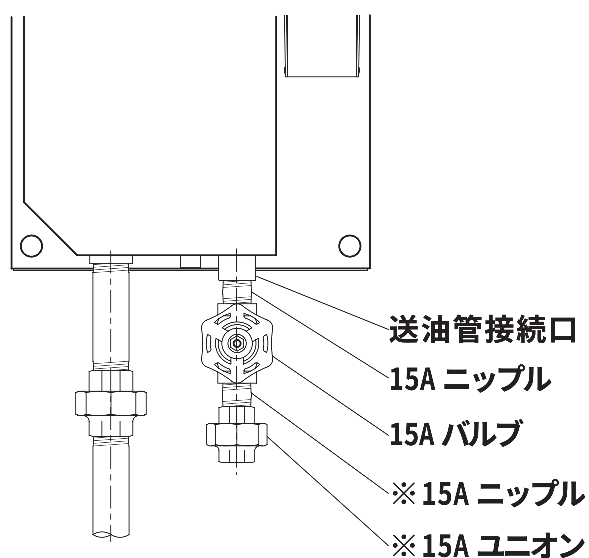


4-4-4.送油管の接続

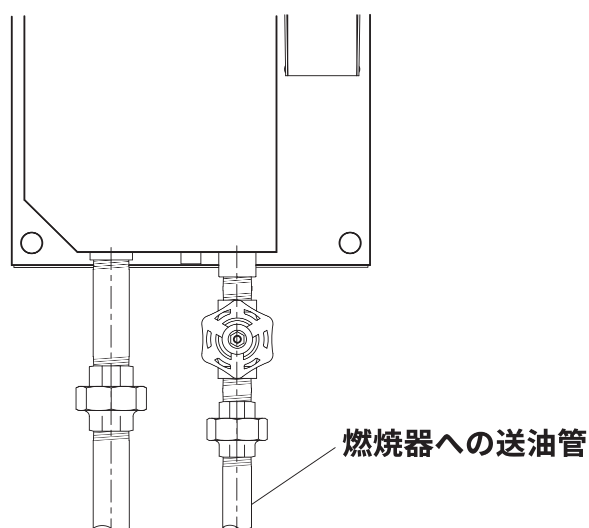
①15A ニップルにシールテープを巻き、送油管接続口に取付けたバルブに15A ニップル、15A ユニオンを接続します。

※ニップル、※ユニオンは付属品外ですので、別途ご用意ください。

また、ユニオンは点検・保守を考慮し「オイルキャリー」の近くに設けてください。



②燃焼器への送油管にシールテープを巻き、ユニオンに接続します。



4-5. 配線工事

4-5-1. 配線上の注意

配線には、次の点に注意してください。

- 入力電源は、AC100V です。AC100V 以外の電源は使用しないでください。
- 電気配線は、供給元の電源を切り感電に注意しておこなってください。

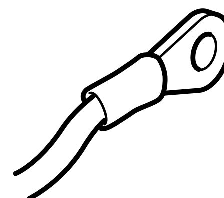
4-5-2. 回路図

「オイルキャリー」の内部回路図を、次に示します。

4-5-3.電気配線の接続

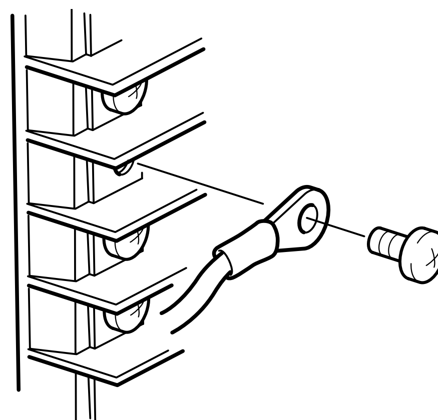
次の手順で、電気配線を接続します。

①電線（1.25㎜²）の端末を絶縁被覆付丸型圧着端子にて処理します。



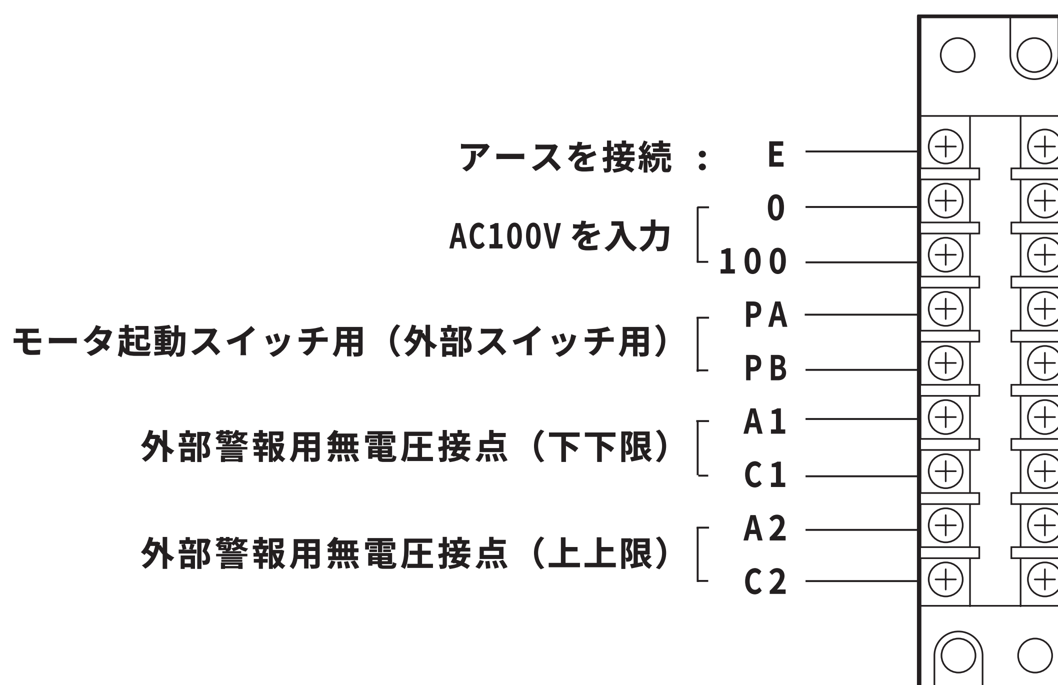
② AC100V の電源線を端子台の「0」および「100」端子にしっかり接続します。

③アース線を端子台の「E」端子にしっかり接続します。



4-5-4.外部接点の接続

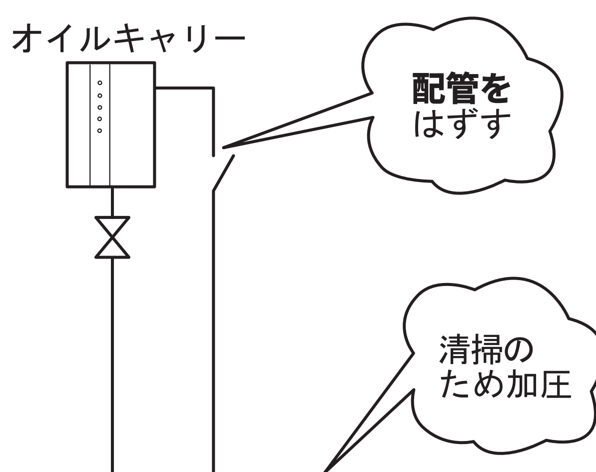
「オイルキャリー」には、外部警報用無電圧接点端子（上上限 / 下下限）および、モータ起動用外部スイッチ接続端子を端子台に設けています。
使用に合わせて接続してください。



4-6.設置が終わったら

各配管および配線が終わったら、管や継手部分に油漏れがないか、誤配線やショートなどがないか点検してください。

管や継手部分の加圧検査をする場合は、「オイルキャリー」内に圧力が加わらないように注意してください。
万一、圧力が加わると故障の原因になります。

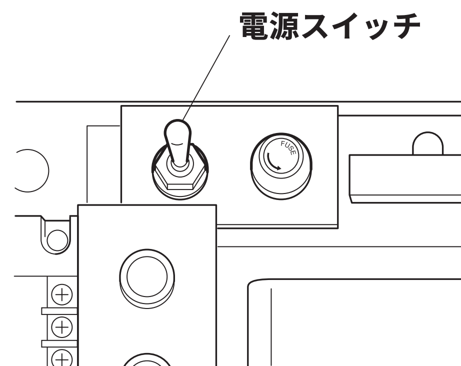


燃焼器およびメインタンクの取扱に関しては、それぞれの「取扱説明書」を参照してください。

5. 運転

設置が終了したら、次の方法で運転してください。
※呼び油を1.5リットル準備してください。

①カバーが取付けられている場合は、カバー上下の固定ねじをはずしカバーをはずします。

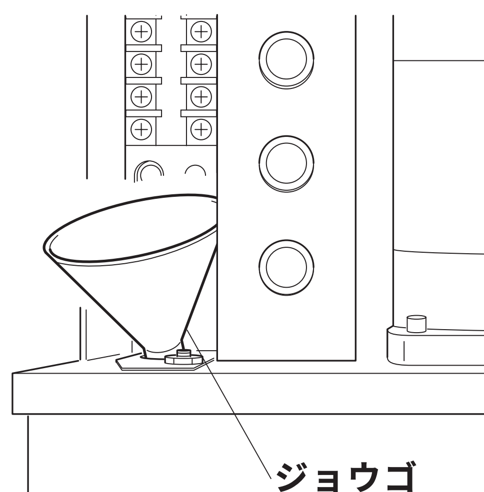


②電源供給元の主電源を入れ電源スイッチを「ON」にします。

③ブザーが鳴り、電源ランプ（白）、減油ランプ（黄）が点灯することを確認します。

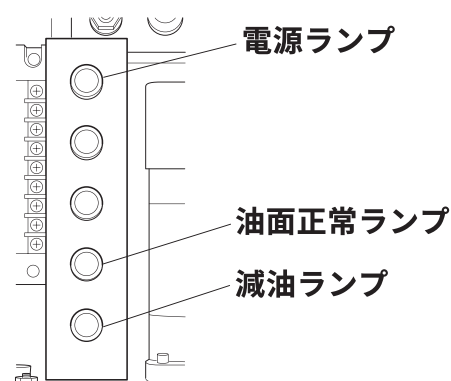
④電源スイッチを「OFF」にします。

⑤呼油口用栓をはずし、付属のジョウゴを挿入し呼び油を約1リットル注入します。



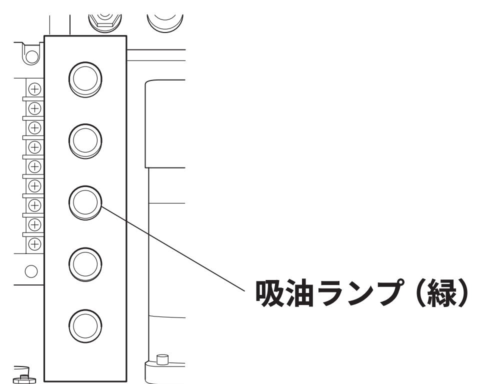
⑥電源スイッチを「ON」にします。

⑦油面正常ランプ（緑）が点灯するまで、さらに呼び油を注入します。
油面正常ランプが点灯するとモータが回転し、吸油ランプ（緑）が点灯します。
吸油時は接続口の真空ゲージの針が振れ、吸い上げ圧を表示します。



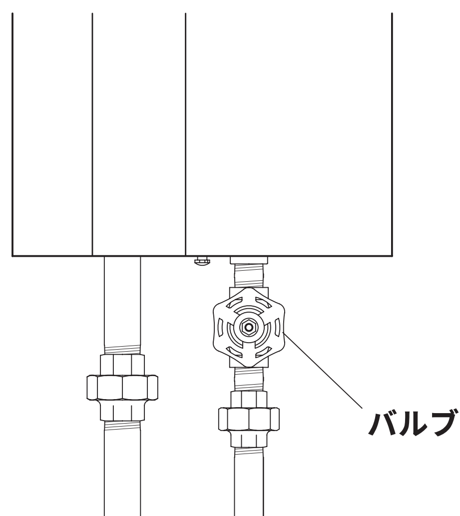
※呼び油を入れ過ぎないように注意してください。入れ過ぎると、すぐにモータが停止し吸入口側のエアーを抜くことができなくなります。
入れすぎたときは、「8-1-3. 水抜き」（P.23）を参照して油を抜き取ってください。

⑧メインタンクから油が送られ油面が上限に達するとモータが停止し、吸油ランプが消灯します。吸油が終了すると、真空ゲージの針はゼロ付近にもどります。
始めは管内にエアーが入っているため「ボコボコ」と音がしますが、エアーが抜けると静かになります。



⑨呼油口用栓を元に戻し、カバーを元に戻します。

⑩燃焼器へのバルブを開き、送油を開始します。



6. 安全装置が動作したとき

6-1. あふれ防止装置が動作したとき

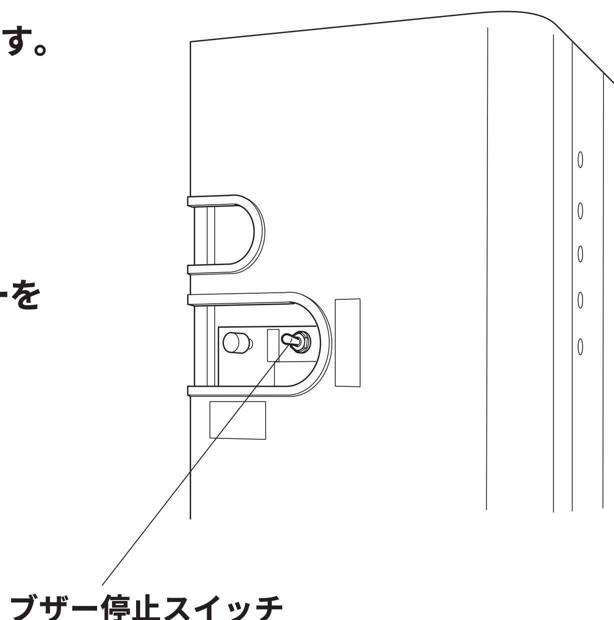
呼び油を入れ過ぎたとき、またはフロートスイッチや電気部品のトラブルにより、油面が異常に上昇した場合は、ブザーが鳴り過剰油面ランプ（赤）が点灯します。
この場合は、次の手順で処置してください。

6-1-1. 戻り管が接続されていないとき

万一、戻り管が接続されていなかったときは、次の手順で油を抜き取ってください。
※「オイルキャリー」には戻り管接続口が付いています。「4-4-3. 戻り管の接続」(P.12)を参照して戻り管を接続してください。

①ブザー停止スイッチを「OFF」にします。

②カバー上下の固定ねじをはずしカバーをはずします。



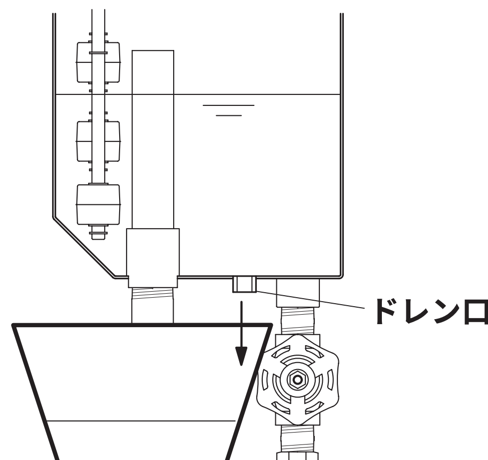
③容器をドレン口にあてがい六角レンチでドレンプラグ（六角穴付）を緩めます。

④油面が正常状態（下限）になるまで油を抜きます。正常状態になると、モータが回転します。

⑤ドレンプラグをしっかり締めます。

⑥カバーを元に戻します。

⑦ブザー停止スイッチを「ON」にします。



6-1-2.フロートスイッチや電気部品にトラブルが発生したとき

「10.トラブル対処法」(P.26)を参照して処置してください。

6-2.空転防止装置が動作したとき

メインタンクの油が空のときや配管に漏れがあるときなどに、モータが回転しているのに油が汲み上がらないことがあります。
「オイルキャリー」にはモータの空転を防止するため、異常減油状態をフロートスイッチで検知し、空転を防止するための機能が内蔵されています。
空転防止装置が動作するとブザーが鳴り、減油ランプ(黄)が点灯します。
この場合は、次の手順で処置してください。

①ブザー停止スイッチを「OFF」にします。

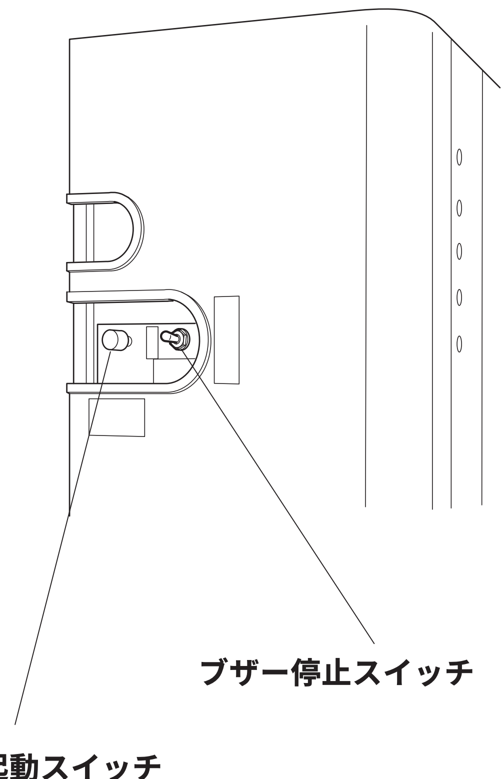
② メインタンクの残量、吸油管をチェックし適切な処置をしてください。

③ 過熱状態になっている場合は、冷えるのを待ってから送油バルブを閉じます。

④ 油面正常ランプ(緑)が点灯するまでポンプ起動スイッチを押します。

⑤ 油面正常ランプが点灯したら、送油バルブを開きます。

⑥ブザー停止スイッチを「ON」にします。



6-3.過熱防止装置が動作したとき

モータ駆動部に異常が発生し、異常に過熱した場合モータ内に組み込まれている安全装置が働き、モータが自動的に停止します。
過熱防止装置が動作し、モータが停止した場合は電源スイッチを「OFF」にしてお買い上げの販売店にご連絡ください。

7. 保管と次シーズンの使用

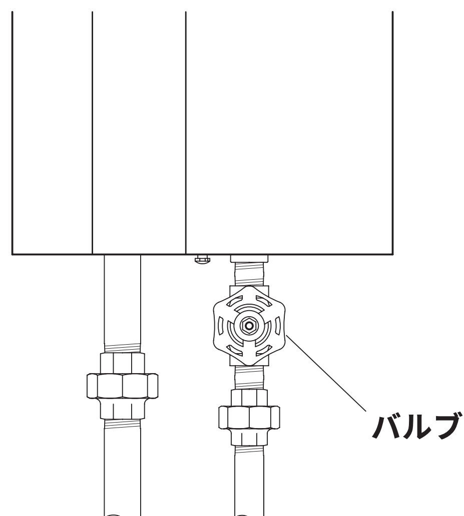
7-1. 保管（長期間使用しないとき）

シーズンが終わり、次シーズンまで使用しない場合は、次の手順で保管してください。

①カバー上下の固定ねじをはずしカバーをはずします。

②供給元の主電源を切り、電源スイッチを「OFF」にします。

③送油側のバルブを「閉」の状態にします。



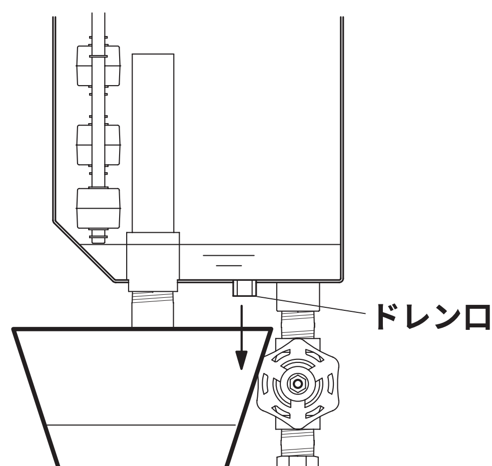
④容器をドレン口にあてがい六角レンチでドレンプラグ（六角穴付）を緩めます。

⑤「オイルキャリー」内の油を完全に抜き取ります。

⑥ドレンプラグをしっかり締めます。

⑦カバーを元に戻します。

⑧燃焼器およびメインタンクは、それぞれの「取扱説明書」を参照して保管してください。



7-2.次のシーズンで使用するとき

シーズンが始まり使用する場合は、「5. 運転」（P.17）の手順で運転再開し、油を汲上げることを確認してください。また、各配管に油漏れがないことを確認してください。

8. 保守・点検

8-1. 保守・点検

正常な動作を維持するために定期点検をおこない、必要に応じて保守をおこなってください。

⚠ 警　告	
🚫	保守・点検などで交換した部品、機器は投棄しない →環境汚染の原因となりますので、産業廃棄物処理をする

⚠ 注　意	
⚡	保守・点検の際は感電に注意する →感電によるけがの原因になります
❗	保守・点検の際は計装工事、電気工事などの専門技術を有する人がおこなうこと

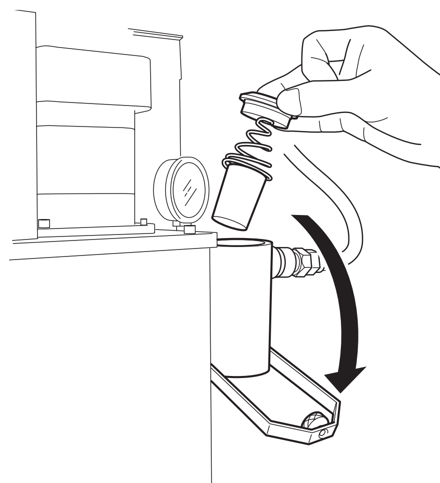
8-1-1.内部および周辺の掃除

カバーをはずし、「オイルキャリー」のモータ部分や周辺などのゴミやほこりを掃除します。

8-1-2.フィルターの掃除

フィルターにゴミなどが詰まると吸引能力の低下を招いたり、ポンプ・フロートスイッチなどの故障の原因になります。次の手順で掃除してください。

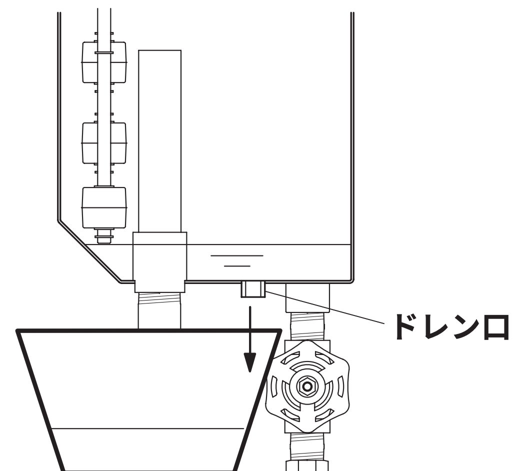
①カバー上下の固定ねじをはずしカバーをはずします。
②電源スイッチを「OFF」にします。
③フィルター固定の押ゴマを緩めます。
④フックを手前にずらし、フィルターを抜き取ります。
⑤フィルターを柔らかいブラシや洗い油などで掃除します。
⑥フィルターをセットし、フックを元に戻します。
⑦押ゴマを締めて電源スイッチを「ON」にします。
⑧油正常ランプが消えていたら、ポンプ起動スイッチを油正常ランプが点灯するまで押します。
⑨カバーを元に戻します。



8-1-3. 水抜き

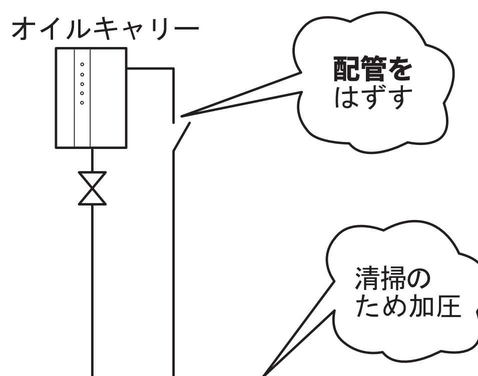
シーズンの初め・長期間運転をおこなわなかった場合に水（ドレン）がたまることがあります。水がたまったと判断できる場合には、次の手順で水抜きをおこなってください。
※メインタンクの水抜きは、メインタンクの取扱説明書を参照してください。

①カバー上下の固定ねじをはずしカバーをはずします。
②電源スイッチを「OFF」にします。
③容器をドレン口にあてがい六角レンチでドレンプラグ（六角穴付）を緩めます。
④水抜きが完了したら、ドレンプラグをしっかり締めます。
⑤「5. 運転」(P.17）の手順で運転を再開します。



8-1-4. メインタンクの掃除

メインタンクを洗浄器を使用して掃除する場合は、「オイルキャリー」に圧力が加わらないよう、吸油管接続口で配管をはずしてからおこなってください。
「オイルキャリー」に圧力が加わると故障の原因になります。

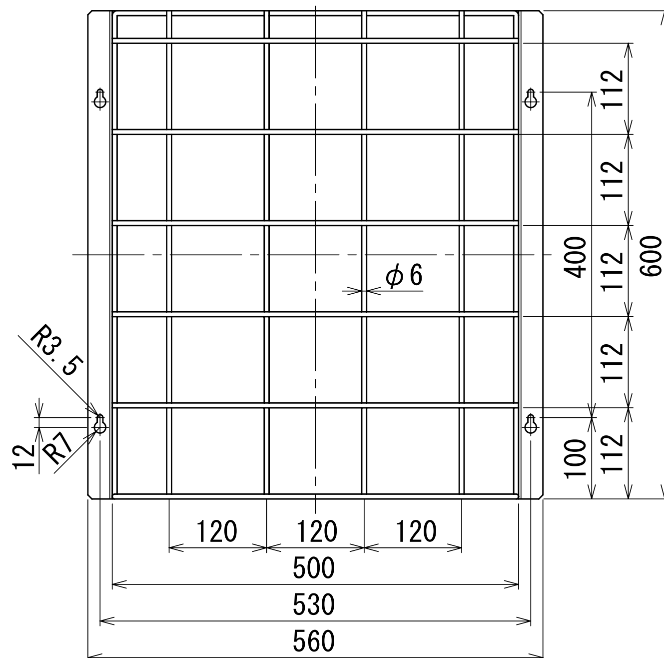


9. オプション品の取付けと設置

9-1. オプション品

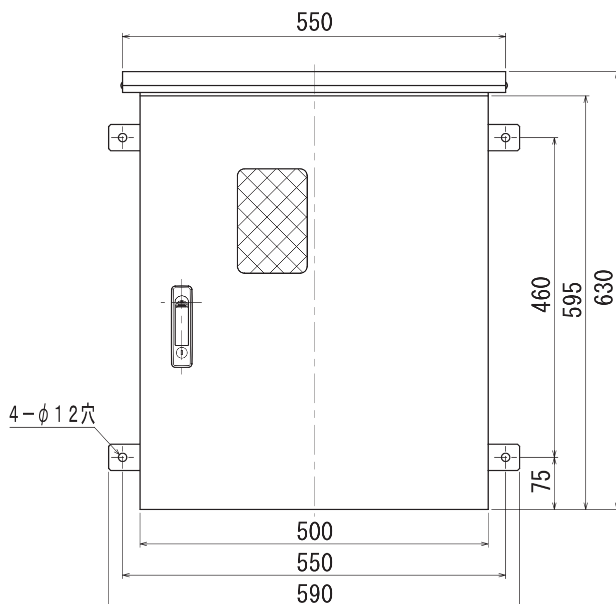
「オイルキャリー」には、次のオプションが用意されています。

・防護カバー　OC-P1-SUS

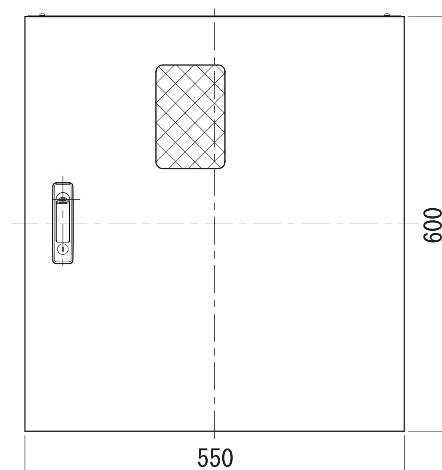


・格納箱

屋外格納箱
OC-W1-SS(SUS)



屋内格納箱（保護ボックス）
OC-I1-SS(SUS)



※「屋外格納箱」および「屋内格納箱」の取付けは、別紙「設置要領書」を参照してください。

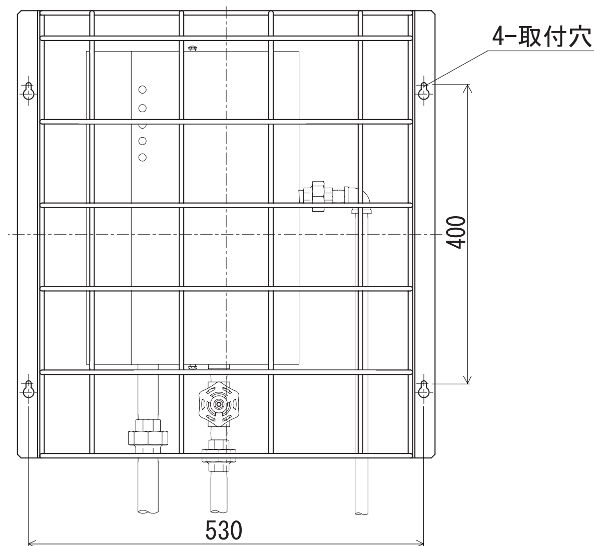
9-2.防護カバーの取付け

「オイルキャリー」を体育館などに設置するときに使用します。
ボールなどの衝撃から「オイルキャリー」を防護します。

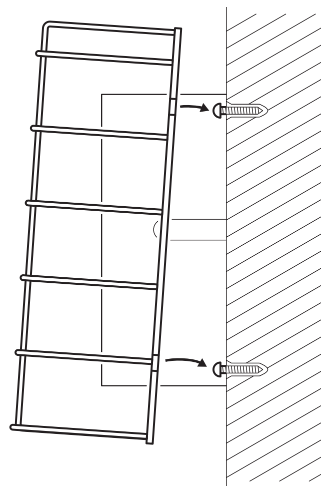
> ある程度の衝撃からは防護しますが、できる限り安全な場所に設置してください。また故意的にボール等を当てないでください。

防護カバーは、次の手順で取付けます。

① 防護カバーを「オイルキャリー」にかぶせ、取付穴位置にマーカーなどで印を付けます。



② 防護カバーをはずし、印の位置に穴を開けプラグを打ち込みます。
③ プラグ 4 箇所にねじを半分程ねじ込みます。
④ ねじ 4 箇所に防護カバーを掛けるように取付け、ねじ 4 本を最後までしっかりねじ込みます。



10．トラブル対処法

故障かな？と思ったら、下記に基づき対処してください。それでも不明の場合は、最寄りのご相談窓口までご連絡ください。

トラブル内容	原　因	対処方法
電源表示 LED が点灯しない	電源が入ってない	内部の電源スイッチおよび主電源スイッチを「ON」にする
	ヒューズが切れている	ヒューズが切れた原因を取除いた後、ヒューズを交換する
	電源 LED が故障している	最寄りのご相談窓口にご連絡ください
減油警報ランプが点灯した	呼び油の不足	呼び油を補給する(P.17)
	メインタンクが空になっている	メインタンクに給油する
	メインタンクのバルブが閉まっている	バルブを開く
	メインタンクのバルブやストレーナが詰まっている	バルブやストレーナを掃除する
	吸上げ高さが高すぎる	吸上げ高さを 8m 以内にする
	吸油側配管の空気漏れ	漏れ箇所を修理する
	油の消費量が吸上げ能力より大きい	消費能力以内におさえる
	誤ってオイルキャリーを傾けた	傾きを直し、一度電源を「OFF」にして再度「ON」にする
	警報用 / 運転用フロートスイッチの故障	最寄りのご相談窓口にご連絡ください
モータは回るが油を汲上げない（真空ゲージの針が振れない）	呼び油の不足	呼び油を補給する(P.17)
	メインタンクが空になっている	メインタンクに給油する
	メインタンクのバルブが閉まっている	バルブを開く
	メインタンクのバルブやストレーナがつまっている	バルブやストレーナを掃除する
	吸上げ高さが高すぎる	吸上げ高さを 8m 以内にする
	吸油側配管の空気漏れ	漏れ箇所を修理する
	油の消費量が吸上げ能力より大きい	消費能力以内におさえる
	ポンプ・モータロックおよびポンプ弁ロック・駆動軸などの破損	最寄りのご相談窓口にご連絡ください
	フィルターの目づまり	フィルターを掃除する(P.22)
	フィルターカバーからの空気漏れ	フィルターのパッキンを交換する

トラブル内容	原　　因	対処方法
モータが回らない	呼び油の不足	呼び油を補給する(P.17)
	呼び油の入れ過ぎ	「8-1-3.水抜き」（P.23）を参照し油を抜き、「5.運転」（P.17）を参照し運転する。
	油が正常油面まで満たされている	正常状態です。油面が下限まで下がるのを待ってモータが回るのを確認する
	誤ってオイルキャリーを傾けた	傾きを直し、一度電源を「OFF」にして再度「ON」にする
	ポンプ・モータロックおよびポンプ弁ロック・フロートスイッチなどの破損	最寄りのご相談窓口にご連絡ください
油は汲上げるが燃焼器に油が供給されない	送油管側のバルブが閉まっている	バルブを開く
	送油管側配管のエアーロック	配管内のエアー抜きをする
	送油管側配管のつまり	つまりを直す
使用中オイルキャリー内の油が空になる	メインタンクが空になっている	メインタンクに給油する
	メインタンクのバルブが閉まっている	バルブを開く
	メインタンクのバルブやストレーナがつまっている	つまりを直す
	吸油管側配管の空気漏れ	漏れ箇所を修理する
	油の消費量が吸上げ能力より大きい	消費能力以内におさえる
	ポンプ・モータロックおよびポンプ弁ロック・フロートスイッチなどの破損	最寄りのご相談窓口にご連絡ください
	フィルターの目づまり	フィルターを掃除する(P.22)
短時間でオイルキャリー内の油が空になる	メインタンクが空になっている	メインタンクに給油する
	メインタンクのバルブやストレーナがつまっている	つまりを直す
	油の消費量が吸上げ能力より大きい	消費能力以内におさえる
	フィルターの目づまり	フィルターを掃除する(P.22)
	吸油管側配管のエアーロック	配管内のエアー抜きをする
	送油管からの油漏れ	漏れ箇所を修理する

トラブル内容	原　　因	対処方法
電源を切っておくとオイルキャリー内の油が空になる	電源を入れていない状態で、油を使用したため油面が低下した	「5.運転」(P.17) を参照して運転する
	逆止め弁の漏れ	最寄りのご相談窓口にご連絡ください
	フィルターの目づまり	フィルターを掃除する(P.22)
運転音が大きい	呼び油の不足	呼び油を補給する(P.17)
	メインタンクが空になっている	メインタンクに給油する
	メインタンクのバルブが閉まっている	バルブを開く
	メインタンクのバルブやストレーナがつまっている	バルブやストレーナを掃除する
	吸上げ高さが高すぎる	吸上げ高さを 8m 以内にする
	吸油管側配管の空気漏れ	漏れ箇所を修理する
	フィルターの目づまり	フィルターを掃除する(P.22)
過剰油面警報ランプが点灯した	運転用フロートスイッチ（上限）の故障	最寄りのご相談窓口にご連絡ください

11. 仕様

11-1. 本体

型式	OC-801
送油方式	落差型
使用燃料	灯油（JIS1号灯油）・A重油
吸上能力	最大揚程：8m　　流量：60L/h（揚程8m時）
入力電源	AC100V 50/60Hz
消費電力	90VA
使用温度範囲	-20～40℃(凍結、結露しないこと)
警報ブザー音量	68dB/m
モータ	コンデンサ起動型誘導電動機（間欠運転）
モータ自動停止温度	120℃
油面制御	＜フロートスイッチ方式＞ ・戻り管接続口：あふれ防止機構 ・上上限 ：モータ OFF（あふれ防止機構） ・上　限 ：モータ OFF（ポンプを停止し、油の汲み上げを停止） ・下　限 ：モータ ON （ポンプを回転し、油の汲み上げを開始） ・下下限 ：モータ OFF（空転防止機構） ・上上限、下下限のレベルになったとき、ブザー鳴動する。 ・外部警報接点 ：下下限、上上限（無電圧A接点） 　接点容量　　：AC220V　3A（抵抗負荷） ・手動モータONスイッチ（フロートスイッチ位置が上限、上上限でないときに有効） ・ブザー停止スイッチ（ブザーを停止するのみで自動復帰はしない） ＜各レベル間の容量＞ レベル間の名称　間隔（mm）　容量（CC） 上上限 ～ オーバーフロー　10　245 上　限 ～ 上上限　15　360 下　限 ～ 上　限　35　845 下下限 ～ 下　限　40　970 タンク底 ～下下限　49.4　1,000 ＜タンク底からの容量＞ レベル　容量（CC） オーバーフロー　3,420 上上限　3,175 上　限　2,815 下　限　1,970 下下限　1,000
配管サイズ	吸油管接続口：10A　送油管接続口：15A　戻り管接続口：20A
外形寸法(mm)	285W × 420H × 180.6D

質量	約12.0kg
呼び油量	1.5リットル
供給能力(灯油)	※吸い上げ管全長25m、パイプ10Aの場合

※吸い上げ管全長25m、パイプ10Aの場合

(LITER/h)
吸い上げ量
OC-801
揚程(m)

11-2. 防護カバー(オプション)

型式	OC-P1-SUS
外形寸法(mm)	560W × 600H × 250D
質量	約4kg
材質	SUS304

12. アフターサービスについて

保守・点検方法、トラブル対処法に基づき点検した上で、正常に動作しないときは最寄りの「ご相談窓口」に点検・修理を依頼してください。

■ 保証書について

・保証書に、品名、型式、製造番号、出荷年月が記載されていることをご確認の上、内容をお読みいただき大切に保管してください。

■ 修理を依頼されるときは

・保証期間中は、保証書の記載内容に基づき無料修理いたします。
・保証期間が過ぎているときは、最寄りの「ご相談窓口」にご相談ください。お客様のご要望により有償修理いたします。

■ 補修部品の最低保有期間

・当社の製品の性能を維持するために必要な補修部品を製造中止後、7年間保有しています。したがって、最低保有期間終了以後は、修理をお引き受けできない場合があります。

■ アフターサービスについてご不明の場合

・修理や製品についてのご相談は、最寄りの「ご相談窓口」にご連絡ください。

この取扱説明書のNo．はGM0071-12です。